

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

#2
Butt

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

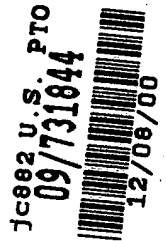
2000年 2月28日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-056008

願 人
Applicant(s):

パイオニア株式会社

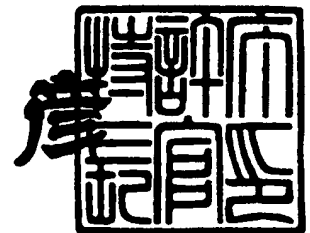


CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年 6月29日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



【書類名】 特許願

【整理番号】 54P0408

【提出日】 平成12年 2月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/445
H04N 5/44

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区大森西4丁目15番5号 パイオニア株式会社
大森工場内

【氏名】 井上 達

【特許出願人】

【識別番号】 000005016

【氏名又は名称】 パイオニア株式会社

【代理人】

【識別番号】 100083839

【弁理士】

【氏名又は名称】 石川 泰男

【電話番号】 03-5443-8461

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007191

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9102133

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 番組ガイド表示装置及び表示方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する番組情報取得手段と、

複数の番組についての前記番組情報を、相互に切り換え可能な第 1 の表示形態及び第 2 の表示形態のいずれかにより表示する番組情報表示手段であって、前記第 1 の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示し、前記第 2 の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番組が少なくとも番組名により識別可能な態様で番組情報を表示する番組情報表示手段と、

前記第 1 の表示形態で表示された番組表上に、前記第 2 の表示形態で表示されるべき番組表範囲を識別可能に表示する範囲表示手段と、

前記番組表範囲の移動指示を受け取る移動指示手段と、

前記移動指示に応じて、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上の前記番組表範囲を移動させる移動手段と、を備え、

前記移動手段が前記番組表範囲を移動させる移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数であることを特徴とする番組ガイド表示装置。

【請求項 2】 複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する番組情報取得手段と、

複数の番組についての前記番組情報を番組表として表示する表示手段と、を備え、前記番組表は、

時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で示された複数の番組セルと、

前記番組表中に表示され、現在選択中の番組セルを示す選択セル表示と、

前記番組表上に前記選択セル表示の近傍に表示され、前記選択中の番組セルに対応する番組の関連情報を文字により示したポップアップ表示と、を含み、前記ポップアップ表示は、前記番組表全体における前記選択中の番組セルの位置に応じて決定される位置に表示されることを特徴とする番組ガイド表示装置。

【請求項 3】 番組ガイド表示方法において、

複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する工程と、

複数の番組についての前記番組情報を、相互に切り換え可能な第 1 の表示形態及び第 2 の表示形態のいずれかにより表示する工程であって、前記第 1 の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示し、前記第 2 の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番組が少なくとも番組名により識別可能な態様で番組情報を表示する工程と、

前記第 1 の表示形態で表示された番組表上に、前記第 2 の表示形態で表示されるべき番組表範囲を識別可能に表示する工程と、

前記番組表範囲の移動指示を受け取る工程と、

前記移動指示に応じて、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上の前記番組表範囲を移動させる工程と、を備え、

前記番組表範囲が移動する移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数であることを特徴とする番組ガイド表示方法。

【請求項 4】 複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する工程と、

複数の番組についての前記番組情報を番組表として表示する工程と、を備え、前記番組表は、

時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で示された複数の番組セルと、

前記番組表中に表示され、現在選択中の番組セルを示す選択セル表示と、

前記番組表上に前記選択セル表示の近傍に表示され、前記選択中の番組セルに対応する番組の関連情報を文字により示したポップアップ表示と、を含み、前記ポップアップ表示は、前記番組表全体における前記選択中の番組セルの位置に応じて決定される位置に表示されることを特徴とする番組ガイド表示方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子番組ガイド (EPG:Electronic Program Guide) に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、放送衛星、通信衛星などの人工衛星を介して、デジタル化したテレビジョン信号を伝送し、各家庭においてこれを受信してテレビ番組を視聴するデジタル放送システムが運用されている。この種のシステムでは、多くのチャンネルを確保することができるので、非常に多数の番組を放送することができる。

【0003】

このようなシステムでは、多数の番組の放送内容を示す電子番組ガイド (EPG) に関する情報を番組の映像・音声情報と共に衛星から各家庭の受信機へ送信する。各家庭では、ユーザが受信機を操作してこの電子番組ガイドをTVディスプレイ上に表示させ、見たい番組を探す。通常、電子番組ガイドの表示においては、ユーザは受信機に付属するリモコンなどを使用して、希望の番組を探すことができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、このようなデジタル放送システムにおいては、100を超える多数のチャンネルが視聴可能であるため、ユーザがその中から見たい番組を探し、選択するのには時間と労力を要する。よって、表示されるEPGは、特にユーザの好みの番組を容易に探すことが可能なものとする必要がある。

【0005】

本発明は、以上の点に鑑みてなされたものであり、簡単な操作により迅速に希

望の番組を探し出すことが可能な電子番組ガイド表示装置を提供することを課題とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 に記載の発明は、番組ガイド表示装置において、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する番組情報取得手段と、複数の番組についての前記番組情報を、相互に切り換え可能な第 1 の表示形態及び第 2 の表示形態のいずれかにより表示する番組情報表示手段であって、前記第 1 の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示し、前記第 2 の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番組が少なくとも番組名により識別可能な態様で番組情報を表示する番組情報表示手段と、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上に、前記第 2 の表示形態で表示されるべき番組表範囲を識別可能に表示する範囲表示手段と、前記番組表範囲の移動指示を受け取る移動指示手段と、前記移動指示に応じて、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上の前記番組表範囲を移動させる移動手段と、を備え、前記移動手段が前記番組表範囲を移動させる移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数であることを特徴とする。

【 0 0 0 7 】

また、請求項 3 に記載の発明は、番組ガイド表示方法において、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する工程と、複数の番組についての前記番組情報を、相互に切り換え可能な第 1 の表示形態及び第 2 の表示形態のいずれかにより表示する工程であって、前記第 1 の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示し、前記第 2 の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番

組が少なくとも番組名により識別可能な態様で番組情報を表示する工程と、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上に、前記第 2 の表示形態で表示されるべき番組表範囲を識別可能に表示する工程と、前記番組表範囲の移動指示を受け取る工程と、前記移動指示に応じて、前記第 1 の表示形態で表示された番組表上の前記番組表範囲を移動させる工程と、を備え、前記番組表範囲が移動する移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数であることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

上記のように構成された発明によれば、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報が取得され、その複数の番組についての前記番組情報は、相互に切り換え可能な第 1 の表示形態及び第 2 の表示形態のいずれかにより表示される。ここで、第 1 の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示する。一方、第 2 の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番組が番組名などにより識別可能な態様で番組情報を表示する。さらに、第 1 の表示形態で表示された番組表上に、第 2 の表示形態で表示されるべき番組表範囲が識別可能に表示される。ユーザから番組表範囲の移動指示がなされると、その移動指示に応じて第 1 の表示形態で表示された番組表上の番組表範囲が移動する。移動手段が前記番組表範囲を移動させる移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数と定められているので、ユーザは広範囲の番組情報を効率的に閲覧し、好みの番組を探すことができる。

【 0 0 0 9 】

請求項 2 に記載の発明は、番組ガイド表示装置において、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する番組情報取得手段と、複数の番組についての前記番組情報を番組表として表示する表示手段と、を備え、前記番組表は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設

定された色によって識別可能な態様で示された複数の番組セルと、前記番組表中に表示され、現在選択中の番組セルを示す選択セル表示と、前記番組表上に前記選択セル表示の近傍に表示され、前記選択中の番組セルに対応する番組の関連情報を文字により示したポップアップ表示と、を含み、前記ポップアップ表示は、前記番組表全体における前記選択中の番組セルの位置に応じて決定される位置に表示されることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

また、請求項 4 に記載の発明は、番組ガイド表示方法において、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報を取得する工程と、複数の番組についての前記番組情報を番組表として表示する工程と、を備え、前記番組表は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で示された複数の番組セルと、前記番組表中に表示され、現在選択中の番組セルを示す選択セル表示と、前記番組表上に前記選択セル表示の近傍に表示され、前記選択中の番組セルに対応する番組の関連情報を文字により示したポップアップ表示と、を含み、前記ポップアップ表示は、前記番組表全体における前記選択中の番組セルの位置に応じて決定される位置に表示されることを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

上記のように構成された発明によれば、複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報が取得され、その複数の番組についての前記番組情報が番組表として表示される。番組表は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で示された複数の番組セルと、番組表中に表示され、現在選択中の番組セルを示す選択セル表示と、番組表上に前記選択セル表示の近傍に表示され、選択中の番組セルに対応する番組の関連情報を文字により示したポップアップ表示と、を含む。ポップアップ表示は、前記番組表全体における前記選択中の番組セルの位置に応じて決定される位置に表示される。よって、ユーザは広範囲の番組表を見つつ、同時にその中に

含まれる特定の番組についての詳細な情報を得ることができる。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の好適な実施の形態について説明する。

[1] 受信機の構成

図 1 に、本発明の実施形態にかかる衛星デジタル放送受信機の構成を示す。図 1 に示す衛星デジタル放送受信機 1 は、視聴者の家庭に配置され、衛星からのデジタル放送信号（放送波）を受信してテレビジョン（TV）番組を家庭のテレビジョン（TV）受信機の画面上に表示する。また、同時に衛星から送られる電子番組ガイド（EPG）に関する情報を受信し、視聴者の指示に応じてテレビジョンの画面上に表示させる機能を有する。

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、受信機 1 は、バス 2 に種々の要素が接続された構成を有する。また、受信機 1 は、付属のリモコン 1 2 により操作可能である。

【 0 0 1 4 】

衛星から送信された放送波（BS-RF 信号）は、アンテナ 3 により受信され、受信機 1 内のチューナ 4 へ送られる。この放送波には、TV 番組の映像・音声情報（以下、「TV 番組情報」と呼ぶ。）の他に、EPG の表示のために使用される情報（SI（Service Information））が含まれている。チューナ 4 は、ユーザの選択した受信帯域に同調し、受信した信号波を IF（中間周波数）信号に変換し、復調処理部 5 へ送る。復調処理部 5 は、入力されたデジタル信号を復調し、データフレームの再構成及び誤り訂正などの必要な処理を施し、デスクランブラ 2 0 を介して、MPEG 2 のトランスポートストリーム（TS:Transport Stream）形式でデータをデマルチプレクサ 6 へ供給する。

【 0 0 1 5 】

デマルチプレクサ 6 は、入力された MPEG 2 の TS から、指定されたサービスの音声データと映像データとを抽出し、それぞれオーディオデコーダ 1 0 とビデオデコーダ 8 とへ供給する。ここで、音声データは MPEG 2 - AAC 形式であり、映像データは MPEG 2 - Video 形式である。オーディオデコーダ 1 0 は

、入力された音声データを復号化して番組音声データを生成し、これを音声処理部 1 1 へ供給する。音声処理部 1 1 は、アンプを含み、所定の音声信号処理を行って音声出力を生成する。

【 0 0 1 6 】

一方、ビデオデコーダ 8 は、映像データを復号して番組映像データを生成し、これをディスプレイプロセッサ 9 へ供給する。ディスプレイプロセッサ 9 は、入力された番組映像データに所定の処理を施して、映像出力を生成する。また、ディスプレイプロセッサ 9 は、TV ディスプレイ画面に表示される番組映像上に文字情報などを重畳させる機能を有する。後に述べる EPG 表示用データは、このディスプレイプロセッサ 9 により番組映像データ上に重畳され、又は番組映像データと置き換えられて出力され、TV ディスプレイ上に表示される。

【 0 0 1 7 】

また、デマルチプレクサ 6 は、入力された MPEG 2 の TS から SI を含む制御データを抽出する。SI は EPG 表示用データの元になる情報であり、EPG 表示処理は SI を利用して行われる。デマルチプレクサ 6 が抽出した、SI を含む制御データは、CPU 1 7 の制御下において RAM 1 6 内に記憶される。また、RAM 1 6 には、EPG 表示を行うための EPG テキストデータも記憶される。フラッシュメモリ 1 4 は EPG 表示を行う際に必要な種々のグラフィックデータ（番組表の枠、放送チャンネルのロゴマークなどの所定マークなど）を記憶し、ROM 1 5 は EPG 用テキストデータとして使用されるフォントデータなどを記憶している。

【 0 0 1 8 】

限定受信処理部 7 は以下の処理を行う。事前契約型の限定放送はサービス単位又は番組単位で行われ、対象となる MPEG 2 の TS が暗号化され送信される。限定受信処理部 7 は、暗号解読処理部（デスクランブラ 2 0）と、契約情報を記録し視聴判定を行う IC カード 2 1 から構成される。この IC カード 2 1 は放送事業者共同運営のサービスセンターから各受信機ユーザへ配布される。このカードにはユーザと各放送事業者との契約状況に応じてユーザ契約情報が記載されており、一般に各ユーザ毎にその記載内容が異なる。ユーザが限定放送番組を選択

した場合、限定受信処理部 7 はユーザ契約情報と放送波から得られる暗号解読関連情報の双方を用い、ユーザが契約している場合には M P E G 2 の T S の暗号解読を行い、ユーザはこの番組を視聴できる。一方、非契約の場合には M P E G 2 の T S の暗号解読は行われず、ユーザはこの限定放送番組を視聴できない。

【 0 0 1 9 】

また、ペイ・パー・ビュー (Pay Per View) 番組の場合には、ユーザが番組を購入する度に I C カード 2 1 に購入状況が記載され、一定期間毎に受信機側からモデム 1 8、公衆回線 1 9 を介して放送配信事業者側へペイ・パー・ビュー番組購入情報を送信する。

【 0 0 2 0 】

ユーザがリモコン 1 2 を使用して入力した指示はインターフェース 1 3 を介して C P U 1 7 に送られ、認識される。C P U 1 7 は、ユーザの指示に従って受信機 1 内の各要素を制御する。例えば、ユーザが指定したチャンネルの周波数に同調するための指示をチューナ 4 に送る。

【 0 0 2 1 】

E P G の表示の際には、C P U 1 7 は、R A M 1 6 に記憶されている S I を元にして E P G テキストデータを作成する。次に、フラッシュメモリ 1 4 内に記憶されている番組表の枠データなどのグラフィックデータ、R O M 1 5 内のフォントデータ、及び E P G テキストデータを使用して E P G 表示用データを作成し、ディスプレイプロセッサ 9 へ供給する。ディスプレイプロセッサ 9 は、C P U 1 7 からの切換指示に基づいて、ビデオデコーダ 8 からの番組映像データと E P G 表示用データとを切り換え、又は番組データ上に E P G 表示用データを重畳し、映像信号として図示しない T V ディスプレイへ出力する。

【 0 0 2 2 】

また、バス 2 にはモデム 1 8 を介して公衆回線 1 9 が接続されており、ユーザ宅の電話やパソコンなどと接続し、放送局と視聴者家庭との間の必要な通信を行う。

〔 2 〕 信号フォーマット

次に、E P G 表示データの元になるデータとして衛星から送信されるディジタ

ル信号について説明する。図 2 に、デジタル信号のデータ形式を概略的に示す。図示のように、衛星デジタル放送システムでは、複数の B S チャンネル（帯域）が設定され、各 B S チャンネル毎に最大 8 つの M P E G 2 の T S を送信することができる。また、1 つの T S により最大 3 2 のサービスを送信することが可能である。なお、以下の説明において、衛星放送における周波数帯域を場合を「B S チャンネル」と呼び、受信機 1 が受信する各放送番組のチャンネルと区別する。

【 0 0 2 3 】

各 T S 中には、映像・音声などの情報中に全局 S I が多重されている。全局 S I とは、全ての放送局分の S I であり、全てのチャンネルの分の番組配列情報を含んでいる。つまり、同一の内容の全局 S I が全ての B S チャンネルの全ての T S に多重されて送信されている。これにより、視聴者はどの放送局のどのチャンネルを受信している時でも、そのチャンネルの T S に含まれる全局 S I を取得することにより、全チャンネル分の E P G データを作成することができる。具体的には、図 1 に示す C P U 1 7 が、デマルチプレクサ 6 を制御して現在受信中の T S から全局 S I を取得し、これに基づいて E P G テキストデータを作成することになる。

【 0 0 2 4 】

また、図 2 の下部には各 T S 中の映像・音声データの形式を示している。先ほど、1 つの T S あたり最大 3 2 サービスを送信可能であると述べたが、それら複数のサービスは 1 つの T S 内にパケットの形態で時分割多重されている。図 2 に示す例では、最も下に位置する T S には複数の放送局のサービス（サービス A、b、..）が時分割多重されている。従って、例えばサービス A を受信するためには、C P U 1 7 は先ずその T S を含む B S チャンネルに図 1 のチューナ 4 を同調させる。次に、図 1 の復調処理部 5 が、その B S チャンネルに含まれる複数の T S から目的の T S を特定、抽出し、さらにデマルチプレクサ 6 によってその T S 内に時分割多重されているサービス A をその識別情報を参照して抽出することが必要となる。

【 0 0 2 5 】

ここで、図 2 に示すように、各サービス局のデータ（サービス A、B、・・・で示している）の頭には、そのサービスについての各局 S I が挿入されている。各局 S I は、全局 S I と同様の情報であるが、全局 S I には含まれない各局固有の情報を含んでいる。即ち、全局 S I は E P G として全チャンネルについての番組表を表示するのに必要な情報を含み、各局 S I は例えば各番組の概要などのより詳細な情報を含んでいる。従って、図 1 の C P U 1 7 は、ユーザの指示に応じて各局 S I を取得することにより、特定のチャンネルについての概要情報を表示させることができる。

〔 3 〕 曜日 E P G

次に、本発明による E P G 表示画面について説明する。図 3 に、E P G 表示画面の一例を示す。図 3 に示す E P G 表示画面は、複数のチャンネルの番組表を日毎（曜日毎）に示したものであり、以下これを「曜日 E P G」と呼ぶ。なお、曜日 E P G 以外の E P G の表示態様として、番組をジャンル別に表示する「ジャンル E P G」があるが、本発明とは直接関連が無いのでその説明は省略する。また、そのほかに、後述する全体表示 E P G がある。なお、E P G 表示画面は、T V ディスプレイの全面に大きく表示させることもできるし、視聴中の番組画像中に小さくスーパーインポーズして表示させることもできる。

【 0 0 2 6 】

曜日 E P G の最上部には、現在の日時が表示される。曜日 E P G は 3 0 は、図示のように当日から翌週の同じ曜日までの 8 日分の番組表を有している。各曜日に全てのチャンネルについての番組表が用意され、ユーザが曜日タブ 3 4 で希望の日を指定すると、その日の番組表が表示される。リモコン 1 2 の後述の「曜日変更キー」4 7 を 1 回押すたびに、番組表は次の曜日のものになり、7 日後の番組表まで至ったあとは、今日の番組表に戻る。

【 0 0 2 7 】

番組表は番組表表示エリア 3 2 内に表示され、枠により仕切られた各単位を番組セル 3 1 と呼ぶ。番組表表示エリア 3 2 の左側には時間帯表示エリア 2 9 がある。図 3 の例は、5 月 1 3 日（土）の午後 7 時から 1 0 時までの時間帯の番組表が表示された例を示している。また、番組表表示エリア 3 2 の上部には、横方向

にチャンネルが表示されている。

【 0 0 2 8 】

カーソル 3 3（図 3 では黒枠として表示している。）で示す部分は、ユーザにより現在選択されている番組を示している。図 3 の例では、「今週のスポーツ」が選択されている。また、現在選択されている番組についての概要情報が図 3 上部の概要情報欄 3 5 内に表示される。この概要情報は、前述の各 T S 中の全局 S I を元にして生成される。

【 0 0 2 9 】

リモコン 1 2 を操作してカーソル 3 3 を図 3 の左右方向に移動させることにより、チャンネルの選択を行うことができる。また、表示されている番組表の時間軸方向の変更は、リモコン 1 2 によりカーソル 3 3 を上下方向に移動させることにより行う。これらの操作は後述する。カーソル 3 3 を時間軸方向に移動し続けて、その日の午後 1 2 時以降にさらにカーソルを移動させると、番組表の曜日が自動的に翌日になり、カーソル 3 3 は翌日の午前 0 時以降の番組セルを選択した状態となる。また、7 日後の午後 1 2 時（図 3 の例では、20 日（土）の午後 1 2 時）以降にカーソル 3 3 を移動させると、番組表の曜日は「きょう」に戻り、カーソル 3 3 は今日の午前 0 時以降の番組セルを選択した状態になる。但し、過去の番組情報が無い場合は、番組情報がある時間帯以降の番組セルを選択した状態になる。

【 0 0 3 0 】

なお、図 3 の表示例では時間軸方向に 3 時間分、チャンネル軸方向に 5 チャンネル分の番組表を示しているが、これに限定されず、例えばより長い時間、より多くのチャンネルを一度に表示するように構成することもできる。

【 0 0 3 1 】

また、ある番組セル 3 1 内には、継続マーク 3 6 が表示される。継続マーク 3 6 は、その番組が時間が長いので現在の番組表表示エリア 3 2 内に表示しきれず、マークが示す時間軸方向に継続していることを示している。例えば、図 3 の 1 3 0 チャンネル（以下、「c h」と示す。）の午後 9 時から始まる映画「セブン」は 2 時間番組であるが、図 3 では時間帯が 1 0 時までしか表示されていないた

め、その全てを表示できない。よって10時以降もその番組が継続していることを継続マーク36により示している。なお、上向きの継続マーク36はその番組の時間帯が上方向（時間の早い方向）に継続しており、下向きの継続マーク36はその番組の時間帯が下方向（時間の遅い方向）に継続していることを示す。

【0032】

なお、例えば3～5分程度の短時間番組（天気予報やニュースなど）は、EPG画面に表示する際には番組セルの時間方向幅（EPG表示画面における番組セルの高さ）が小さすぎるため、番組名を示す文字を表示することができない。このような場合は、EPG画面上は番組セルのみが示され、ユーザがその番組セルを選択すると概要情報欄35にその内容が示される。これにより、ユーザはどのような短時間番組の内容を確認することができる。

【0033】

図4に、曜日EPGのデータ構造をイメージ化した図を示す。先に述べたように、曜日EPGは当日から翌週の同じ曜日までの8日分の番組表を日毎に示したEPGである。即ち、各曜日の全チャンネルについての番組表を1枚の曜日シート38とし、これが7日先まで日毎に用意されていると考えることができる。従って、ユーザが図3の曜日タブ34の「きょう」を指定すると図3のように今日の番組表が現れる。ユーザが「14日（日）」の曜日タブ34を指定すれば、14日の番組表が表示される。

【0034】

図3に示すような曜日EPG30として表示されるのは、図4の1枚の曜日シート38の一部分にすぎない。図3の表示画面例は、5月13日（土）の午後7：10における曜日EPGの表示例であり、午後7時から10時の時間帯の100chから140chまでの番組表を表示している。ここで、ユーザがリモコン12を操作してカーソル33を現在表示されているエリア外まで移動させると、図4における番組表表示エリア32が移動し、その結果、曜日EPG30に表示される時間帯及びチャンネル帯の一方又は両方が変わることになる。

【0035】

図5に、本発明のデジタル受信機1と共に使用されるリモコン12の外観を

示す。リモコン12の上部に設けられた機能キーのうち、EPGキー46は図3に示すようなEPG画面を表示するためのキーである。即ち、通常の番組を視聴している状態で、EPGキー46を押すと、TVディスプレイの画面は番組画面から図3に示すようなEPG画面に切り換わる。なお、EPG画面を番組画面上に重畳して表示するようにしてもよい。また、EPG画面が表示されている状態でEPGキー46を押すと、元の番組画面に戻る。EPGキー46の下にあるのが「曜日キー」48であり、図3に示すような曜日EPGを表示させるためのキーである。なお、EPG画面には曜日EPG画面の他に、ジャンルEPG画面があり、曜日キー48はEPG画面のうちの曜日EPGを選択する指示を行うキーである。

【0036】

EPGキー46の右隣にあるのが「曜日変更」キー47であり、表示中の番組表の曜日を変更するために使用される。さらに、曜日変更キー47の下にあるのが「ジャンル」キー49でありこれは、EPG画面をジャンルEPGに変更する際に使用される。ジャンルキー49の下にあるのはESCキー50であり、EPG画面から番組画面へ戻るために使用される。BACKキー51は先に入力した指示を取り消して指示前の状態に戻すために使用される。

【0037】

BACKキー51の下には「全体表示」キー52がある。全体表示キー52は、後述する全体表示EPGを表示させる時に使用する。全体表示キー52の隣には「全体表示モード」キー53がある。全体表示EPGには、後述の「曜日EPG表示選択モード」と「ポップアップモード」の2つのモードがあり、全体表示モードキー53はこれら2つのモードを切り換えるために使用される。

【0038】

また、リモコン12のほぼ中央にカーソル移動キー41～44が配置され、図3におけるカーソル33の位置を移動させるために使用される。図3の表示状態において、左方向キー41を押すとカーソル33は左隣りの番組セルへ移動し、右方向キー43を押すとカーソル33は右隣りの番組セルへ移動する。また、上方向キー42を押すとカーソル33は上方向へ移動し、下方向キー44を押すと

カーソル 3 3 は下方向へ移動する。なお、後述の曜日 E P G 表示選択モードにおける全体表示カーソル 6 5 及びポップアップモードにおけるカーソルも、同様にカーソル移動キー 4 1 ～ 4 4 により移動することができる。

【 0 0 3 9 】

但し、カーソル移動キー 4 1 ～ 4 4 を操作してカーソル 3 3 を移動させただけの状態では、受信機 1 の処理上、番組の選択は未だ確定していない。カーソル 3 3 が移動した後、決定キー 4 5 を押すことにより番組の選択が確定する。例えば、図 3 の状態では、受信機 1 は 1 3 0 c h の番組「今週のスポーツ」を受信中である。ここで、ユーザが左方向キー 4 1 を押すと、カーソル 3 3 は番組表表示エリア 3 2 内の左隣りの「ポップス」の番組セルに移動する。しかし、受信機 1 が受信している番組は未だ「今週のスポーツ」のままである。そして、ユーザが決定キー 4 5 を押すと始めて受信機 1 は受信チャンネルを 1 2 0 c h に切り換え、番組「ポップス」の受信を開始して、この番組「ポップス」の受信画像が表示される。

【 0 0 4 0 】

カーソル移動キー 4 1 ～ 4 4 及び決定キー 4 5 により現在時刻より先の時間帯（将来）の番組セルを指定した場合は、通常はその番組の予約画面が現れる。予約画面の指示する操作を行うことにより、その番組の視聴及び録画を予約することができる。また、S I の逐次の更新により、過去の番組情報を消去するようにした場合は、現在時刻より前（過去）の番組セルを指定した場合は、その番組は既に放送された旨のメッセージなどが表示される。

【 0 0 4 1 】

なお、図 5 のリモコン 1 2 における他のキーは通常の T V の受信に関するものなどであり、本発明とは特に直接の関連を有しないので、その説明は省略する。

〔 4 〕 全体表示 E P G

次に、本発明の中心部分である全体表示 E P G について説明する。全体表示 E P G とは、図 3 に示した曜日 E P G の広範囲表示版ということができ、曜日 E P G の全体又は広範囲の部分を一画面に表示する。使用する T V ディスプレイの画面サイズ、解像度及び番組情報を記述する文字サイズなどの制約から、図 3 に示

す曜日 E P G により表示できる番組表領域には限界がある。そこで、全体表示 E P G では曜日 E P G と比較して非常に広範囲の番組表を簡易表示する。

【 0 0 4 2 】

図 6 の上段に全体表示 E P G の表示画面例を示す。全体表示 E P G により表示可能な範囲は、好ましくは 1 日分の曜日 E P G 全体であるが、使用する T V 受信機その他の制約により不可能な場合には可能な最大範囲とする。全体表示 E P G を表示させる時、ユーザは番組視聴状態で図 5 に示すリモコン 1 2 の全体表示キー 5 2 を押す。なお、全体表示 E P G が表示されている状態でユーザが全体表示キー 5 2 を押すと、T V ディスプレイの表示は番組視聴状態に戻る。

【 0 0 4 3 】

図 6 に示す全体表示 E P G 6 0 は、時間軸方向に 1 2 時間分、チャンネル軸方向に 2 2 チャンネル分の番組表を示している。なお、これは単なる一例であり、他のサイズ（範囲）とすることも可能である。全体表示 E P G 6 0 の上部には横方向に曜日タブ 6 1 が表示され、図 6 の例では今日（2 0 0 0 年 5 月 1 3 日）が選択されている。また、縦方向には時間帯表示エリア 6 2 が設けられ、図 6 の例では 5 月 1 3 日の午後 6 時から翌日の午前 6 時までが表示されている。番組表表示エリア 6 3 内には、複数の番組セル 6 4 が表示されている。なお、図 6 の例では、簡単のために各番組はいずれも 1 時間の番組であると仮定している。

【 0 0 4 4 】

全体表示 E P G 6 0 における各番組セル 6 4 は、図 3 に示す通常の曜日 E P G と異なり、番組の内容を記述する文字情報を含んでいない。これは、全体表示 E P G 6 0 は広範囲の番組表を一画面で表示するものであるため、各番組セル 6 4 の文字情報を表示しきれないためである。その代わりに、各番組セル 6 4 は、その番組内容に対応するジャンル色で表示される（但し、図 6 においては便宜上ジャンル色の図示を省略している）。ジャンル色とは、ジャンル毎に予め設定された色である。番組表として表示される番組は、そのジャンルにより予め分類されている。ジャンルの分類例は、映画、スポーツ、ニュース・報道、などであり、それぞれに対応するジャンル色が決定されている。よって、全体表示 E P G 6 0 においては、各番組セル 6 4 内に文字情報で番組内容を記述する代わりに、番組

セル 6 4 を対応するジャンル色で表示する。ユーザは番組名まではわからないが、各番組のチャンネル帯、時間帯、及びジャンルを瞬時に知ることができる。なお、以上の表示形態は以下に述べる 2 つのモードにおいて共通である。

【 0 0 4 5 】

次に、全体表示 E P G における 2 つのモードについて説明する。全体表示 E P G は、「曜日 E P G 表示選択モード」と「ポップアップモード」の 2 つのモードを有する。先ず、曜日 E P G 表示選択モードについて説明する。

【 0 0 4 6 】

曜日 E P G 表示選択モードでは、図 6 の上段に示すように、全体表示 E P G の番組表中に全体表示カーソル 6 5 が表示される。全体表示カーソル 6 5 のサイズは、予め決定された所定サイズとする。そのサイズは、例えばチャンネル軸方向に 5 チャンネル分、時間軸方向に 3 時間分であり、好ましくは図 3 に示す曜日 E P G 3 0 の番組表表示エリア 3 2 のサイズと一致させる。曜日 E P G 表示選択モードでは、この全体表示カーソル 6 5 が番組表表示エリア 6 3 内を上下左右に移動する。即ち、図 5 に示すリモコンのカーソル移動キー 4 1 ～ 4 4 を押すことにより、全体表示カーソル 6 5 が対応する方向へ移動する。図 6 の例では、全体表示カーソル 6 5 は 1 0 0 ～ 1 4 0 チャンネル、午後 7 時～ 1 0 時の番組表領域を指定しており、この状態でユーザが右方向へのカーソル移動キー 4 3 を押すと、全体表示カーソル 6 5 は隣の点線枠 6 6 で示す番組表領域に移動する。

【 0 0 4 7 】

ユーザは全体表示 E P G 6 0 中のジャンル色で色分けされた番組セルを見ながら全体表示カーソル 6 5 を任意の方向へ移動させる。そして、全体表示カーソル 6 5 を希望の位置へ移動させた状態でユーザが図 5 に示すリモコン 1 2 の曜日キー 4 8 を押すと、TV ディスプレイ上には図 6 下段に示す曜日 E P G 3 0 が表示される。これは、図 3 を参照して説明した通常の曜日 E P G である。そして、今度はカーソル 3 3 が有効となり、ユーザは通常の曜日 E P G の要領でカーソルを移動し、好みの番組を探すことができる。図 6 の下段に示す曜日 E P G が表示された状態でユーザが全体表示キー 5 2 を押すと、ディスプレイ上の画面は図 6 上段の全体表示 E P G に戻る。

【 0 0 4 8 】

このように、ユーザは全体表示 E P G を表示させ、まず各番組セルのジャンル色を参照し、全体表示カーソル 6 5 を移動させて好みのジャンルの番組が放送される番組表領域（チャンネル帯及び時間帯）を探す。次に、その番組表領域へ全体表示カーソル 6 5 を移動させた状態で曜日キー 4 8 を押して曜日 E P G を表示させ、詳細な情報を得ることができる。こうして、ユーザは全体表示 E P G と曜日 E P G とを切り換えつつ、番組表の広範囲の部分から好みの番組を効率的に探すことが可能となる。

【 0 0 4 9 】

次に、ポップアップモードについて説明する。ポップアップモードとは、全体表示 E P G の表示状態において、選択中の番組セルの概要情報をポップアップ画面によって表示するモードである。

【 0 0 5 0 】

図 7 にポップアップモードの表示画面例を示す。図 7 において、ベースとなる全体表示 E P G は図 6 上段のものと同様であり、曜日タブ 6 1、時間帯表示エリア 6 2、番組表表示エリア 6 3、複数の番組セル 6 4 などが表示されている。カーソル 7 5 は、図 6 の全体表示カーソル 6 5 とは異なり、1 つの番組セル 6 4 を選択する。カーソル 7 5 は、ユーザがリモコン 1 2 のカーソル移動キー 4 1 ～ 4 4 を操作することにより上下左右に移動可能である。そして、カーソル 7 5 が選択している番組セル 6 4 の番組の概要情報がポップアップ画面 7 6 内に示される。ユーザがカーソル 7 5 を移動させると、それに伴ってポップアップ画面 7 6 中の番組概要情報が変更される。

【 0 0 5 1 】

ポップアップモードへは、図 6 に示す全体表示 E P G の曜日 E P G 表示選択モードにおいて、図 5 に示すリモコン 1 2 の全体表示モードキー 5 3 を押すことにより入ることができる。よって、ユーザは図 6 に示す曜日 E P G 表示選択モードで全体表示カーソル 6 5 の単位で番組表を広範囲に閲覧し、目的の番組表領域がある程度決まった状態でポップアップモードへ移行し、各番組の概要情報を参照しながら見たい番組を探すことができる。

【 0 0 5 2 】

次に、ポップアップモードにおけるポップアップ画面の表示位置について説明する。ポップアップ画面は、ユーザが番組表のどの位置にある番組情報を見ているのかが直感的に分かりやすいように、カーソル 7 5 が選択している番組セルの一角とポップアップ画面 7 6 の一角が接触するように表示される（図 8（B）参照）。また、他の表示方法として、番組セルとポップアップ画面 7 6 が接近し、ないしは連続するように表示することもできる。詳しくは、まず、図 8（A）に示すように、全体表示 E P G の全表示領域を領域 1 ～ 4 に 4 分割する。そして、カーソル 7 5 が領域 1 に属する場合は図 8（C）のパターン 1 で、領域 2 に属する場合はパターン 2 で、領域 3 に属する場合はパターン 3 で、領域 4 に属する場合はパターン 4 で表示する。この様子を図 9 に示す。なお、ポップアップ画面 7 6 のサイズは、図 8（D）に示すように、4 分割した全体表示 E P G の 1 つの領域のサイズを超えないものとする。これにより、カーソル 7 5 がどの位置にあってもポップアップ画面は必ず図 8（C）に示す 4 つのパターンのいずれかによって表示することができる。

〔 5 〕 全体表示 E P G の表示処理

次に、全体表示 E P G における表示処理について図 1 0 乃至 1 2 のフローチャートを参照して説明する。図 1 0 は全体表示 E P G における表示処理のメインルーチンであり、図 1 1 は図 1 0 の曜日 E P G 表示選択モードの処理のサブルーチンであり、図 1 2 は図 1 0 のポップアップモードの処理のサブルーチンである。なお、以下の処理は、図 1 に示す C P U 1 7 が R O M 1 5 に記憶されているプログラムを実行してディスプレイプロセッサ 9 などの各要素を制御することにより行われる。

【 0 0 5 3 】

図 1 0 において、まず、ユーザは番組視聴状態にあるとする（ステップ S 2）。ここで、C P U 1 7 は、リモコン 1 2 の全体表示キー 5 2 が押されたか否かを検出する（ステップ S 4）。押されない場合は、番組視聴状態が継続する。押された場合は、C P U 1 7 は R A M 1 6 を参照して全体表示 E P G のための表示データを取得し（ステップ S 6）、曜日 E P G 表示選択モードへ入る（ステップ S

8)。

【 0 0 5 4 】

曜日 E P G 表示選択モードの処理を図 1 1 に示す。まず、全体表示 E P G 画面が図 6 上段に示す曜日 E P G 表示選択モードで表示される (ステップ S 2 0)。よって、ユーザはリモコン 1 2 を操作して全体表示カーソル 6 5 を移動させ、所望の番組表領域を選択する (ステップ S 2 2)。なお、全体表示カーソル 6 5 の初期位置はそれまで視聴していた番組が含まれる位置とし、その位置が表示された番組表の左上隅や中央といった所定位置になるようにしてもよい。

【 0 0 5 5 】

表示させたい番組表領域が決まって、ユーザがリモコン 1 2 の曜日キー 4 8 を押すと (ステップ S 2 4 : Yes)、その時点で全体表示カーソル 6 5 が選択していた領域が図 6 の下段に示すように曜日 E P G で表示される (ステップ S 2 6)。よって、ユーザは、曜日 E P G の表示状態で各種の操作を行うことができる (ステップ S 2 8)。次に、ユーザにより全体表示キー 5 2 が押されたか否かが判定され (ステップ S 3 0)、押された場合は処理はステップ S 2 0 へ戻って曜日 E P G 表示選択モードを継続する。一方、全体表示キー 5 2 が押されない場合は、処理は図 1 0 へ戻る。

【 0 0 5 6 】

次に、ユーザにより全体表示モードキー 5 3 が押されたか否かが判定される (ステップ S 1 0)。押されない場合は、曜日 E P G 表示選択モードを継続する。押された場合は、ポップアップモードへ移行する (ステップ S 1 2)。ポップアップモードの処理を図 1 2 に示す。まず、全体表示 E P G 画面が、図 7 に示すようなポップアップモードで表示される (ステップ S 3 2)。次に、ユーザによりカーソル 7 5 が移動されたか否かが判定される (ステップ S 3 4)。カーソルが移動された場合、移動後に選択されている番組セルの番組内容がポップアップ表示される (ステップ S 3 6)。次に、再度カーソル 7 5 が移動されたか否かが判定され (ステップ S 3 8)、移動された場合は処理はステップ S 3 6 へ戻る。こうして、ステップ S 3 4 ~ S 3 8 の処理により、カーソルが移動される度に、移動後に選択されている番組セルの番組内容がポップアップ表示されることになる。

【 0 0 5 7 】

ステップ S 3 4 及び S 3 8 でカーソルの移動が検出されない場合、次にユーザにより決定キー 4 5 が押されたか否かが判断される（ステップ S 4 0）。押された場合、その時点で選択されている番組の受信を開始し、もしくは視聴又は録画の予約処理を行い（ステップ S 4 2）、処理を終了する。一方、決定キー 4 5 が押されなかった場合、処理は図 1 0 のメインルーチンへ戻る。

【 0 0 5 8 】

図 1 0 に戻って、次に、ユーザにより全体表示モードキー 5 3 が押されたか否かが判定される（ステップ S 1 4）。押された場合、処理はステップ S 8 へ戻り、曜日 E P G 表示選択モードへ入る。こうして、ポップアップモードから曜日 E P G 表示選択モードへの移行が行われる。全体表示モードキー 5 3 が押されない場合、ユーザにより全体表示キー 5 2 が押されたか否かが判定される。押されない場合、処理はステップ S 1 2 へ戻り、ポップアップモードを継続する。一方、全体表示キー 5 2 が押された場合、処理は番組視聴状態へ戻る。

【 0 0 5 9 】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、全体表示 E P G により広範囲の番組表が一画面に表示される。また、全体表示 E P G の全体表示カーソルは所定時間及び所定チャンネル数毎に移動する。よって、ユーザは広範囲の番組表から希望の番組を効率的に探すことができる。さらに、ポップアップモードにおいては、選択中の番組セルに応じた適切な位置にポップアップ画面が表示されるので、ユーザはその番組の概要情報を容易に見ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施形態による衛星デジタル放送受信機の構成を示すブロック図である。

【図 2】

デジタル放送によるデータ送信方法を示す図である。

【図 3】

E P G 表示例を示す図である。

【図 4】

E P G 表示用データの構造の概念を模式的に示す図である。

【図 5】

図 1 の受信機と共に使用されるリモコンの外観を示す図である。

【図 6】

全体表示 E P G の表示画面例を示す図である。

【図 7】

ポップアップモードの表示画面例を示す図である。

【図 8】

ポップアップモードにおけるポップアップ画面の表示方法を説明する図である。

【図 9】

ポップアップモードにおけるポップアップ画面の表示方法を説明する他の図である。

【図 1 0】

全体表示 E P G における表示処理を示すフローチャートである。

【図 1 1】

図 1 0 における曜日 E P G 表示選択モードの処理を示すフローチャートである。

【図 1 2】

図 1 0 におけるポップアップモードの処理を示すフローチャートである。

【符号の説明】

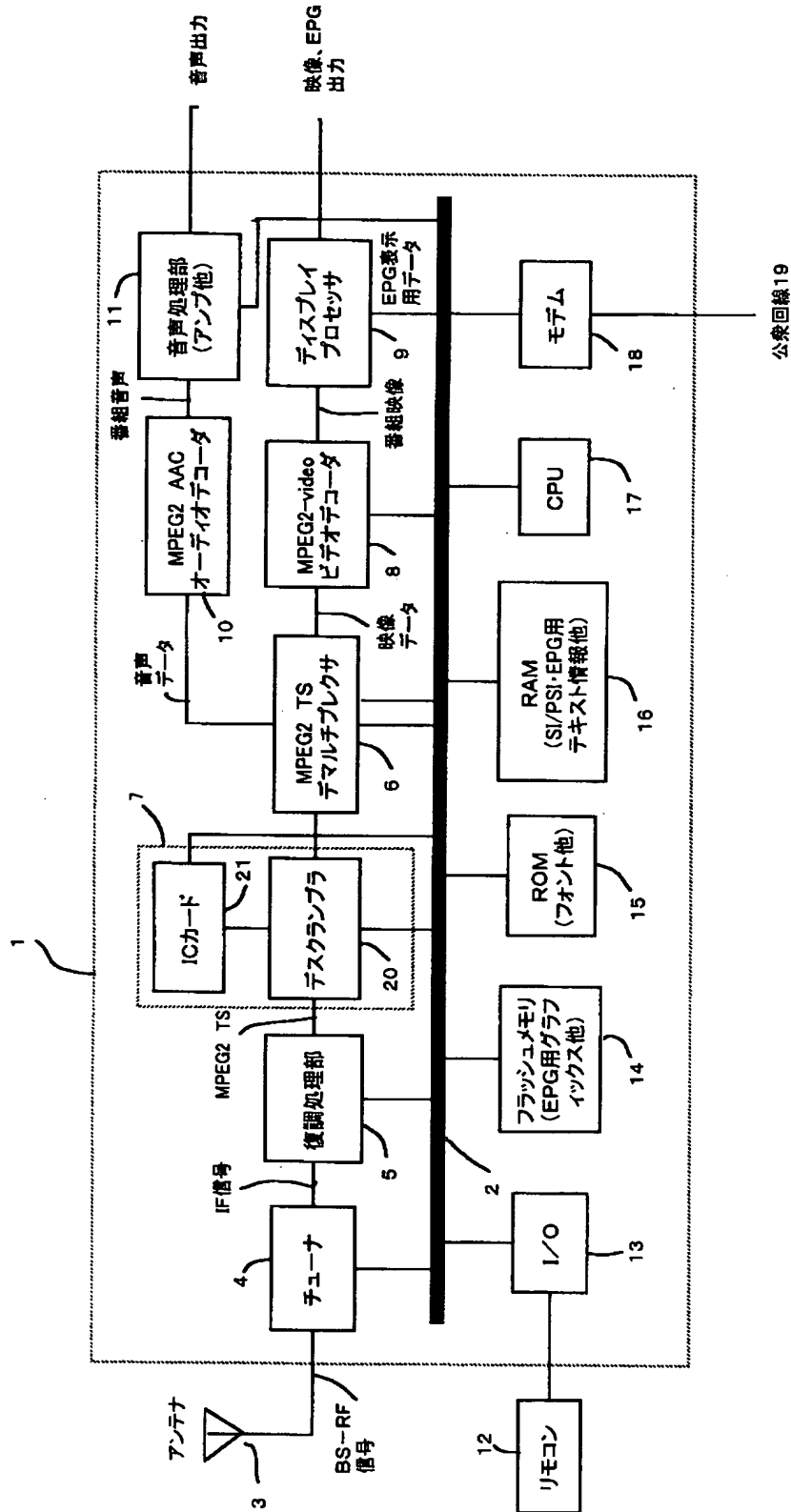
- 1 … デジタル放送受信機
- 2 … バス
- 3 … アンテナ
- 4 … チューナ
- 5 … 復調処理部

- 6 …デマルチプレクサ
- 7 …限定受信処理部
- 8 …ビデオデコーダ
- 9 …ディスプレイプロセッサ
- 1 0 …オーディオデコーダ
- 1 1 …音声処理部
- 1 2 …リモコン
- 1 3 …インターフェース
- 1 4 …フラッシュメモリ
- 1 5 …ROM
- 1 6 …RAM
- 1 7 …CPU
- 1 8 …モデム
- 1 9 …公衆回線

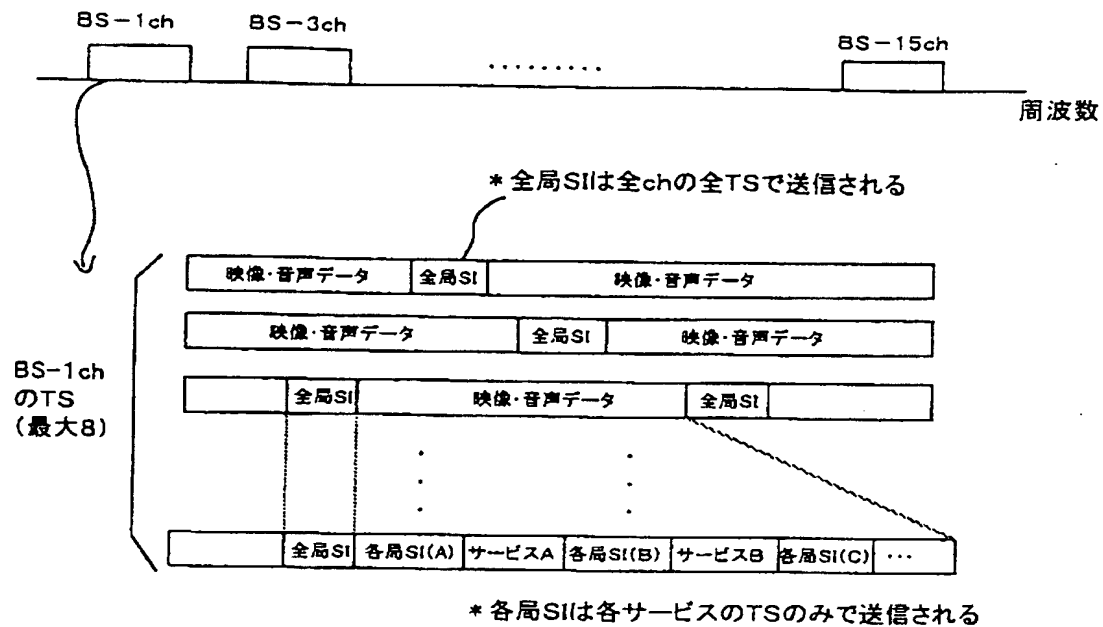
【書類名】

図面

【図 1】



【図 2】



- * 各ch毎に
 - ・最大8つのMPEG2 TSを送信可能
 - ・1つのTS当たり最大で32サービスを送信可能
(TV: 最大8、ラジオ: 最大16、データ: 最大24)

【図 3】

30

2000年5月13日(土) 午後7:10 番組表									
130ch		BS ABCテレビ 今週のスポーツ 5月13日(土) PM7:00~9:00 プロ野球、ゴルフ、サッカーなど							
5月		きょう	14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)
午後	▲	100ch	110ch	120ch	130ch	140ch			
	7	ニュース ▲	プロ野球	ポップス	今週の スポーツ	今日の料理			
	8	ドラマ 「OO」	OOVS△△	動物クイズ 「OO」		サッカー OOVS△△			
		天気予報							
9	▼	OO スペシャル	ドラマ 「ABC」	連続ドラマ 「CDE」	映画 「セブン」	フィッシング ▼			

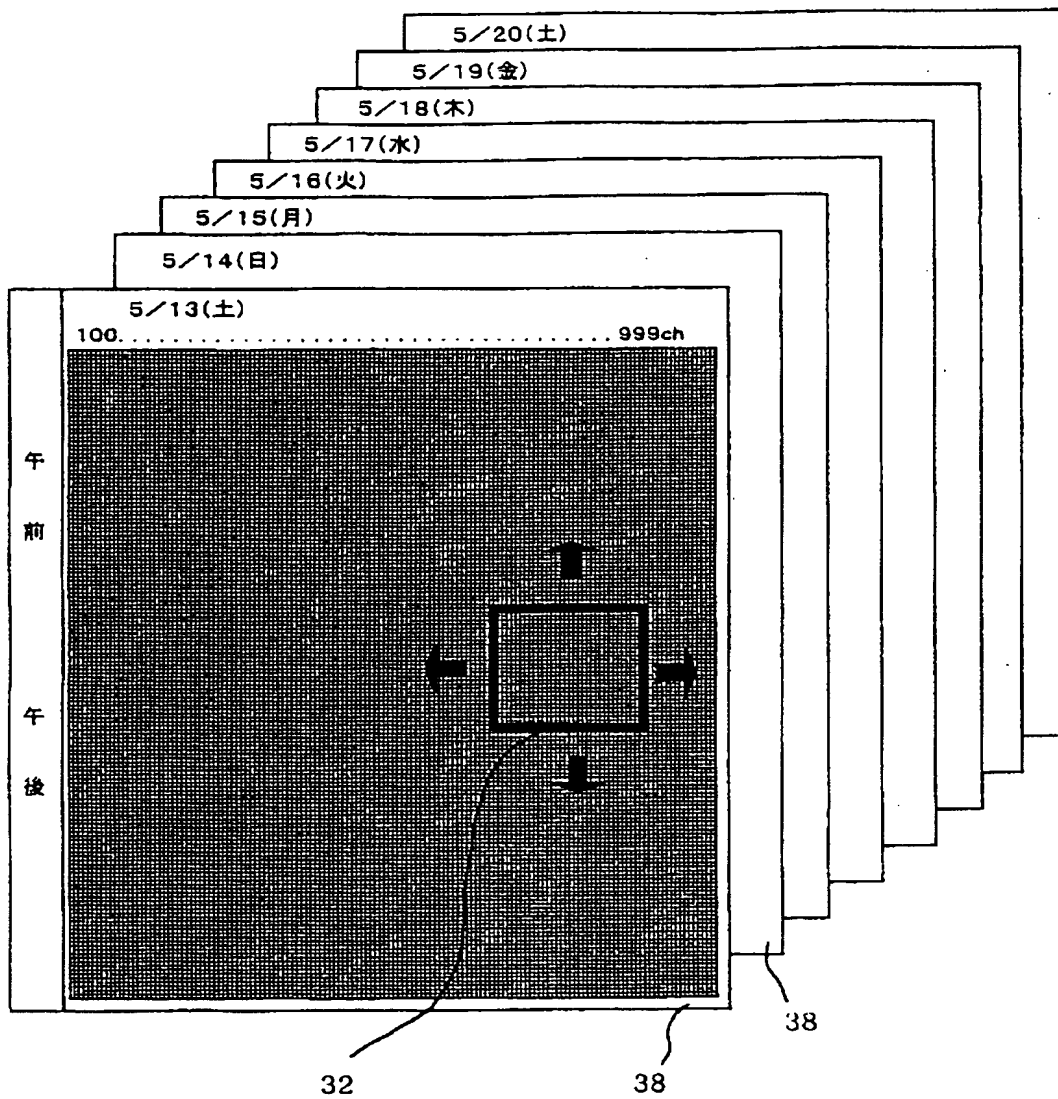
29 31 36 32

35

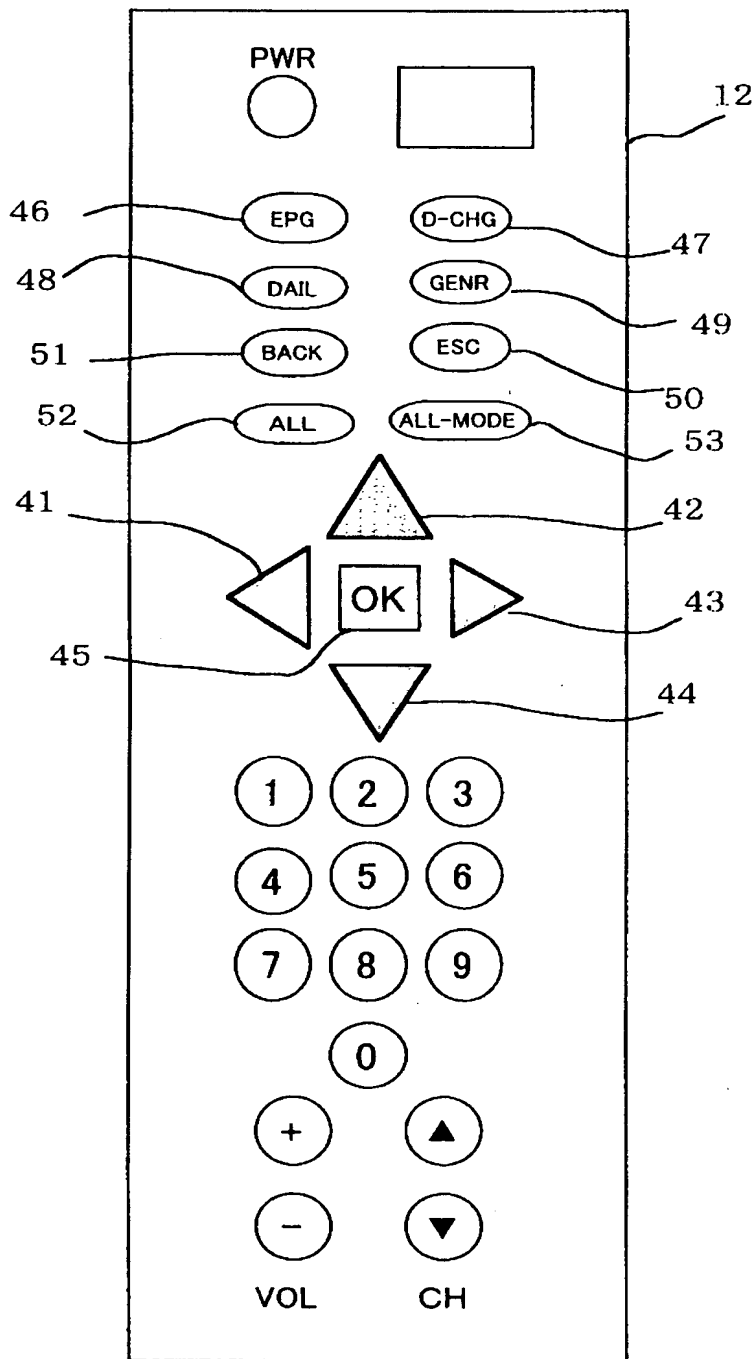
34

33

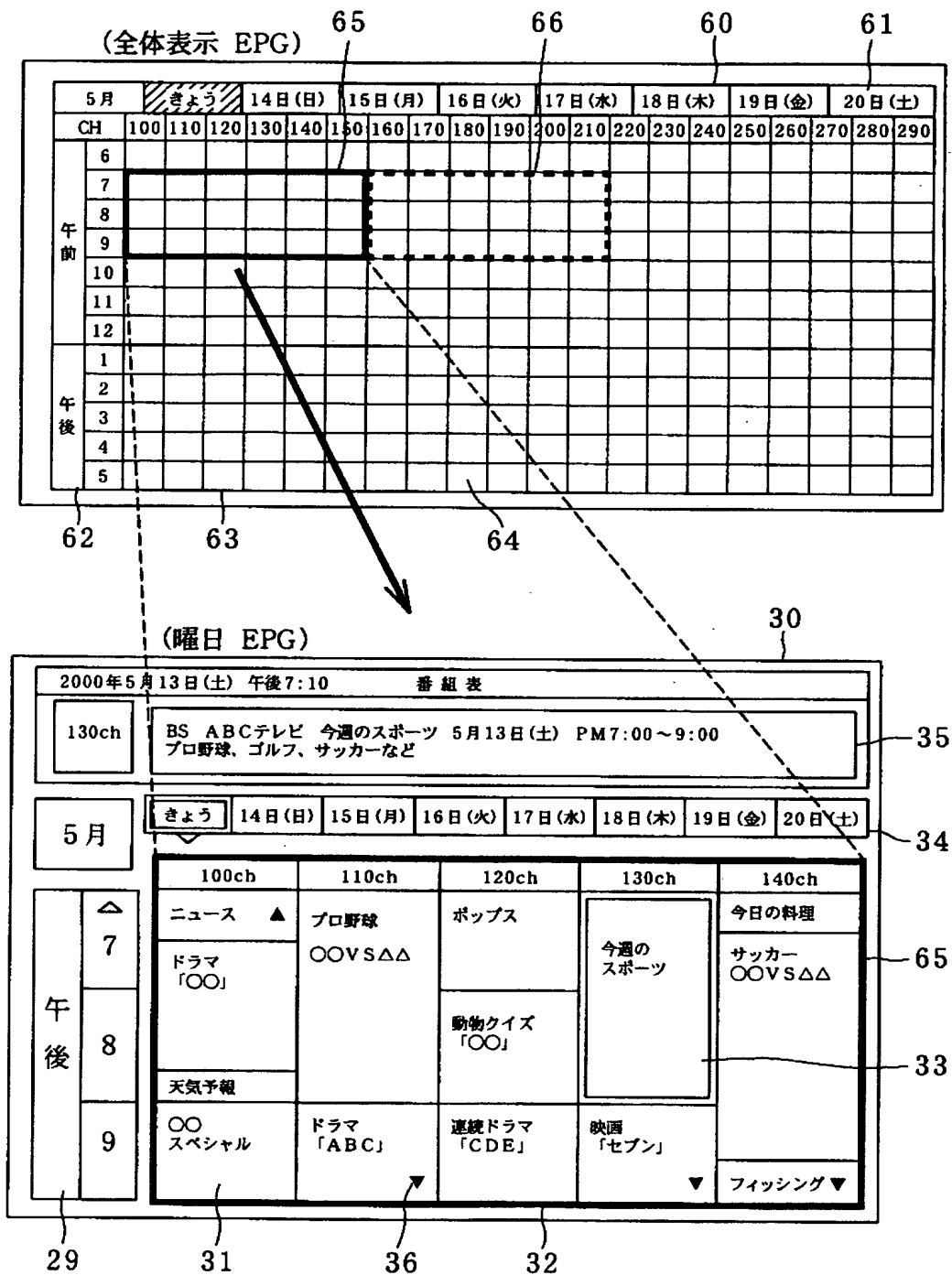
【図 4】



【図 5】



【図 6】

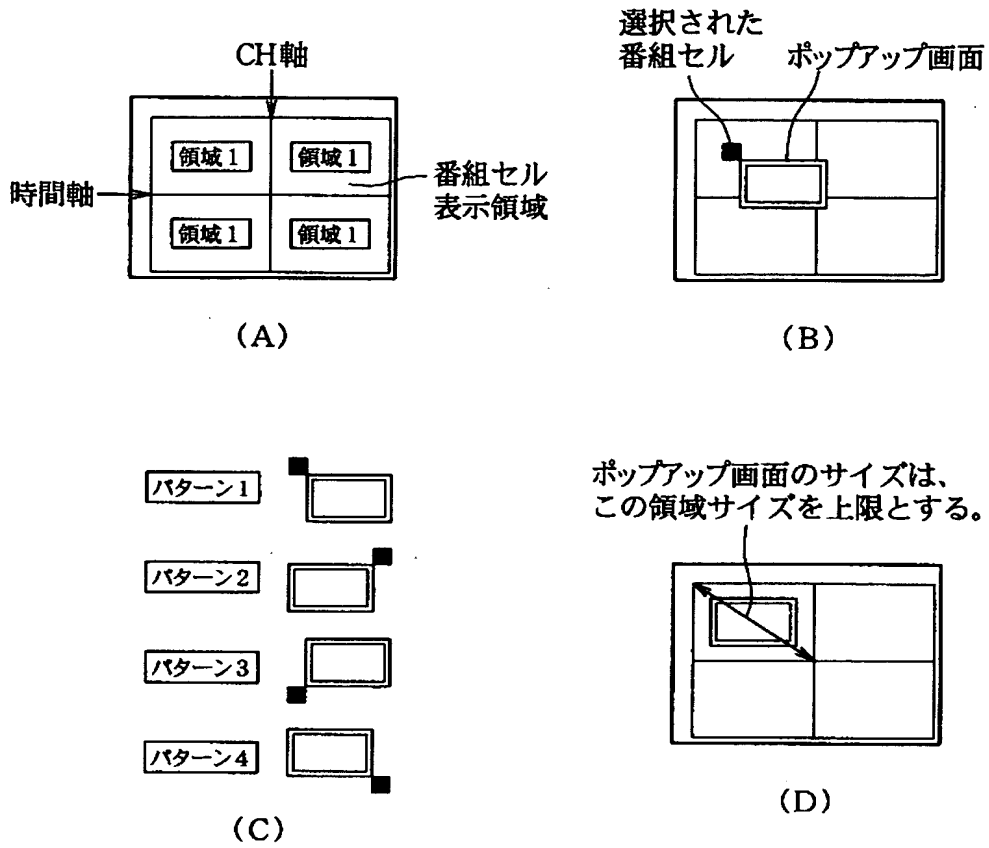


【図 7】

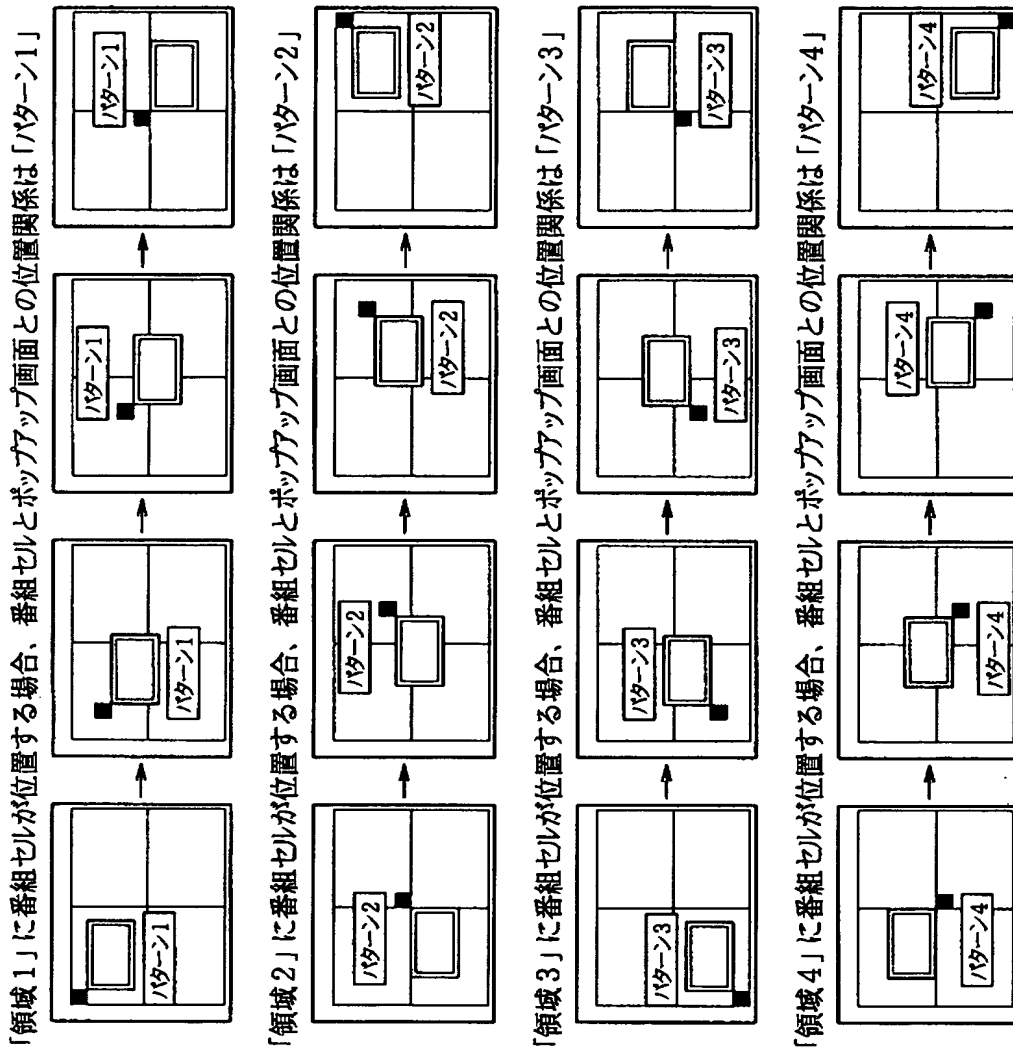
5月		きよう		14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)										
CH	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290
午前	6																			
	7			*																
	8																			
	9																			
	10																			
	11																			
12																				
午後	1																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			

BS ABCテレビ
今週のスポーツ
5月13日(土) PM7:00~9:00
プロ野球、ゴルフ、サッカーなど

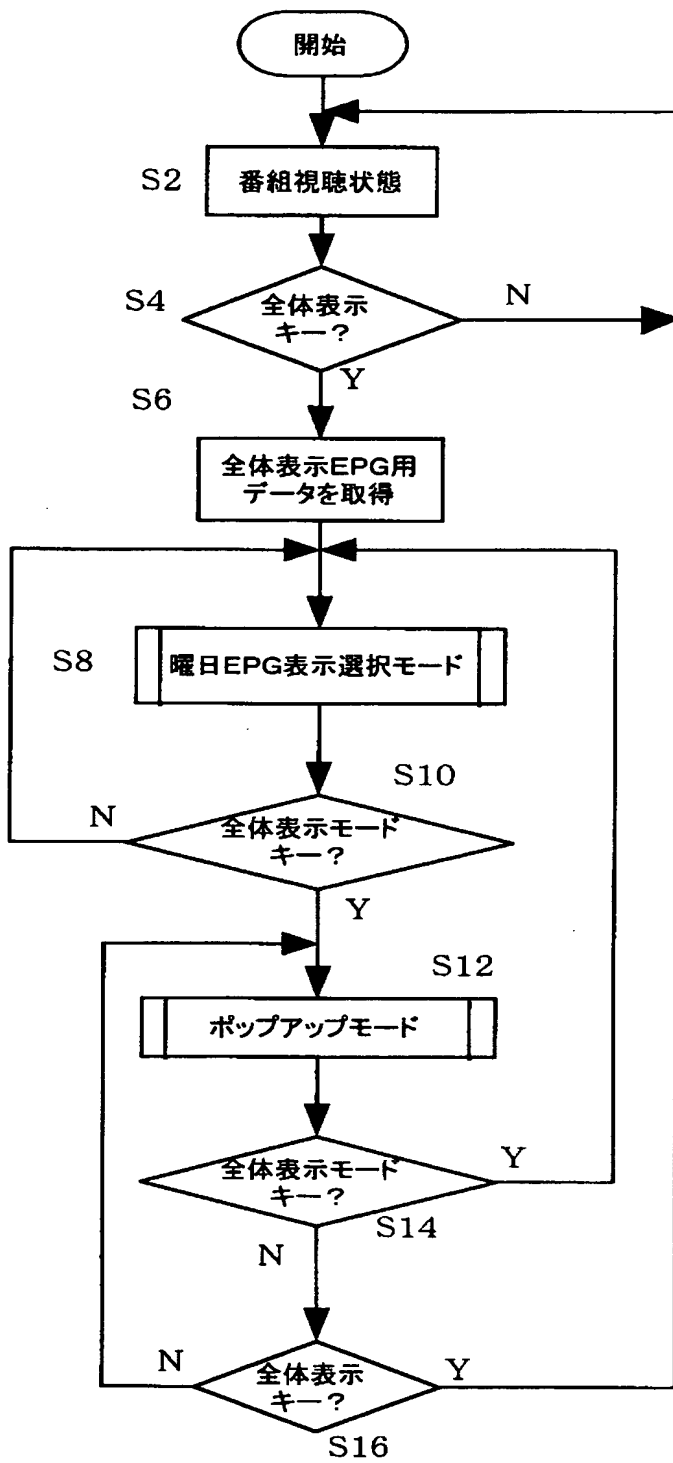
【図 8】



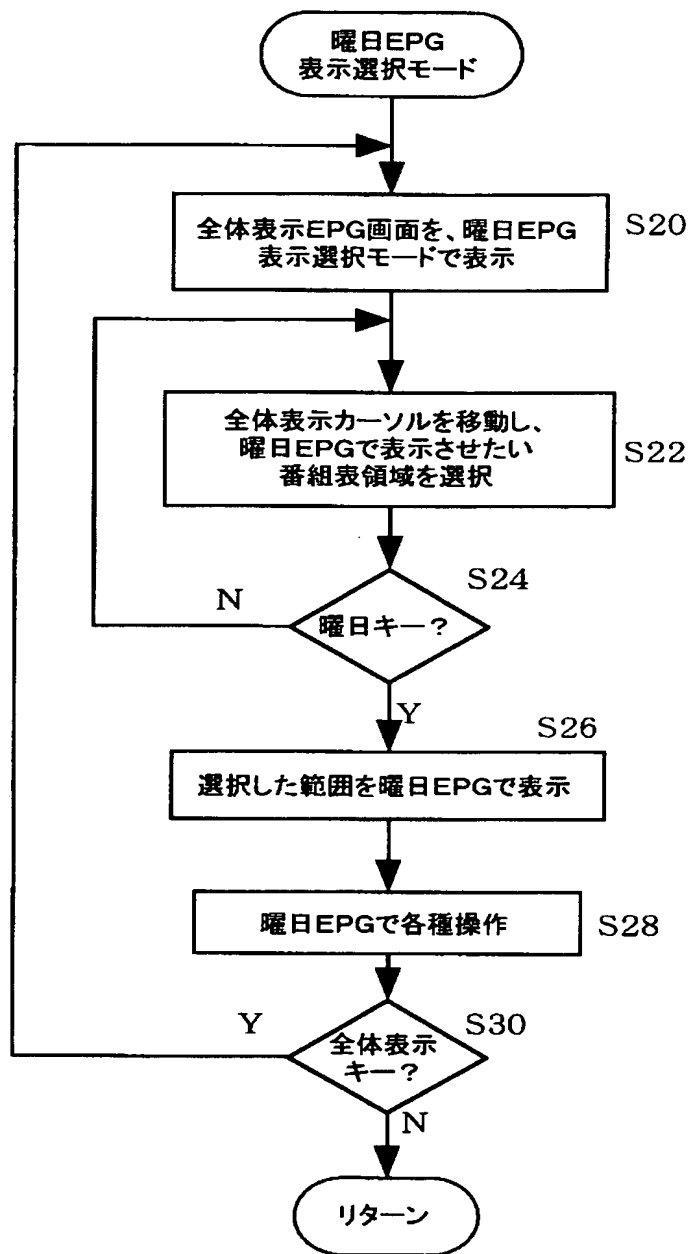
【図 9】



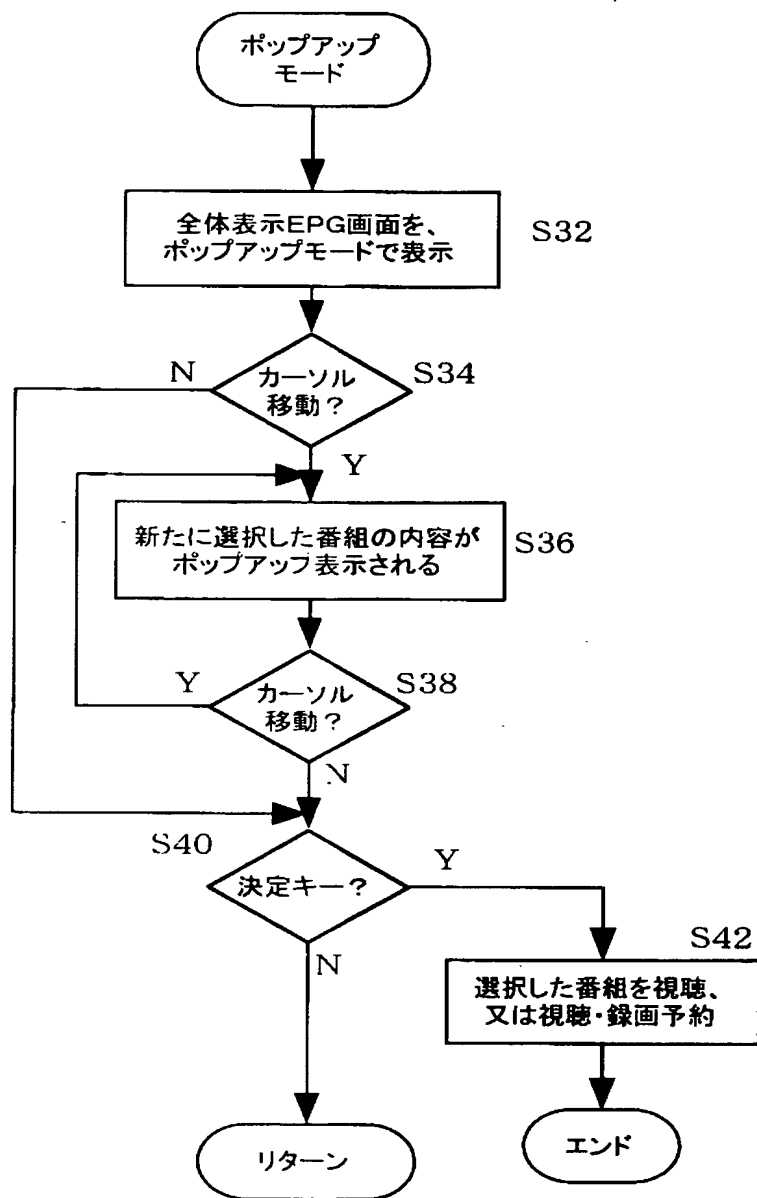
【図10】



【図 11】



【図 12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 簡単な操作により迅速に希望の番組を探し出すことが可能な電子番組ガイド表示装置を提供する。

【解決手段】 複数の番組の少なくとも番組名、ジャンル名、開始時刻、番組の長さ又は終了時刻、放送チャンネル、放送日の情報を含む番組情報が取得され、その複数の番組についての前記番組情報は、相互に切り換え可能な第1の表示形態及び第2の表示形態のいずれかにより表示される。ここで、第1の表示形態は、時間軸の広範囲及びチャンネル軸の広範囲にわたって各番組がジャンル毎に設定された色によって識別可能な態様で番組情報を表示する。一方、第2の表示形態は、時間軸の前記広範囲より狭い狭範囲及びチャンネル軸の前記広範囲より狭い狭範囲にわたって各番組が少なくとも番組名により識別可能な態様で番組情報を表示する。さらに、第1の表示形態で表示された番組表上に、第2の表示形態で表示されるべき番組表範囲が識別可能に表示される。ユーザから番組表範囲の移動指示がなされると、その移動指示に応じて第1の表示形態で表示された番組表上の番組表範囲が移動する。移動手段が前記番組表範囲を移動させる移動距離は、時間軸方向へ所定単位時間数かつチャンネル方向へ所定チャンネル数と定められているので、ユーザは広範囲の番組情報を効率的に閲覧し、好みの番組を探することができる。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005016]

1. 変更年月日	1990年 8月31日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都目黒区目黒1丁目4番1号
氏 名	パイオニア株式会社